

第4章 6地区・9地区ごとの公共施設を通じた
行政サービスの実態

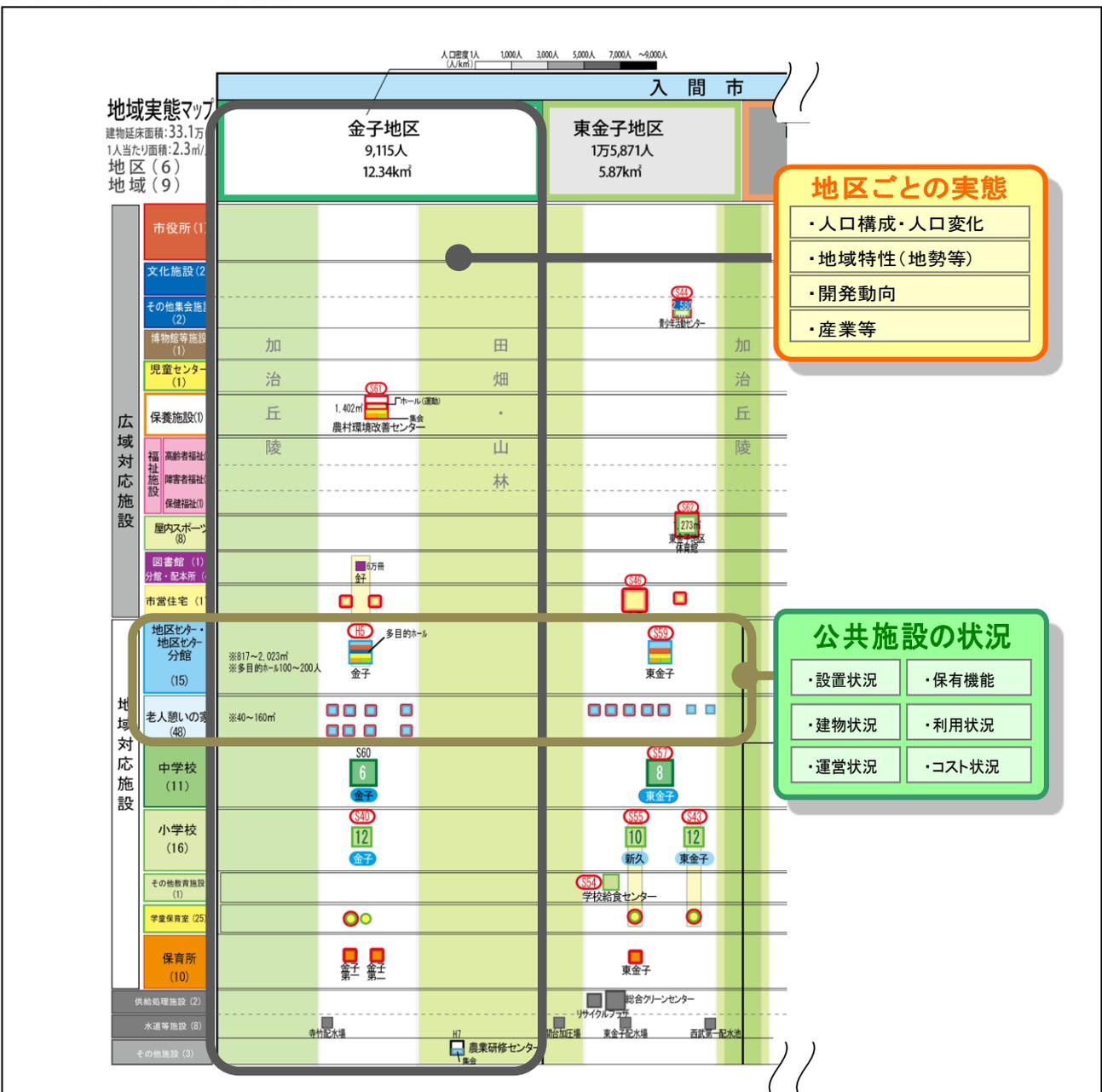
第4章 6地区・9地区ごとの公共施設を通じた行政サービスの実態

1. エリア別実態把握

今後、公共施設の有効活用を図っていくためには、第1・2章で把握した各地区の状況及び特性等に加え、第3章で整理・検証した用途ごとの公共施設の実態や今後の検討の視点を踏まえ、地区ごとの公共施設の配置状況や整備状況等を整理し、課題を把握・整理することで、市全般にわたる総合的な施設の整備運営に対する方向性等を検討する必要があります。

第4章では、6地区及び9地区ごとに、それぞれの地区の人口構造の変化、公共施設の配置及び整備状況等に加え、各施設の老朽化状況及び利用状況等を整理し、さらに地区ごとのトータルコストも把握します。それらを基に各地区の課題を抽出・整理し、さらに総合的視点から公共施設の整備・運営について今後の方向性を明らかにして、今後の地区ごとのまちづくりと連動した施設の最適化につなげていきます。

図表 地区ごとの実態把握



豊岡地区

	合計	第一	第二	第三
面積 (km ²)	7.33	2.87	1.96	2.50
人口 (人)	52,992	25,726	10,710	16,556
人口密度 (人/km ²)	7,229	8,964	5,464	6,622

	合計	第一	第二	第三
延床面積 (m ²)	139,755	54,251	55,778	29,726
1人当りの保有量 (m ² /人)	2.64	2.11	5.21	1.80

※人口：令和6（2024）年4月（入間市住民基本台帳）

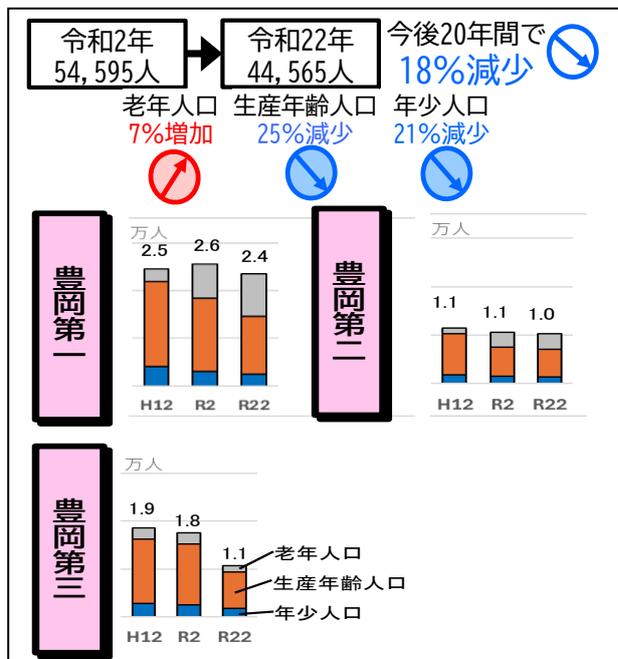
① 概要（土地利用・交通など）

入間市駅から扇町屋2丁目にかけて、デパートや、映画館・レジャー施設等の入った複合ビルなどが立ち並ぶ中心商業地となっています。

昭和53（1978）年以降、基地跡地に小・中学校、高校、図書館、産業文化センター、公団や県営住宅、県営公園などが整備され、近接している市役所などとともに、市の公共的な中心地を形成しています。

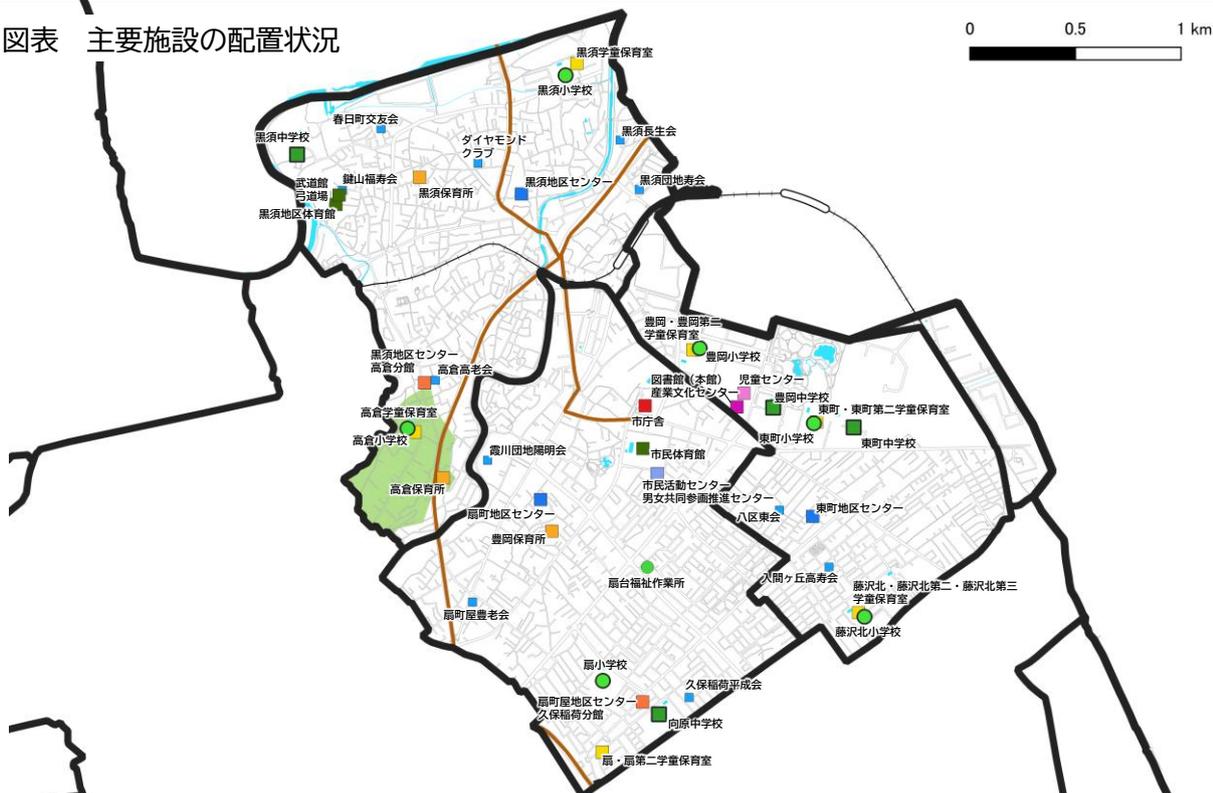
② 人口（現状と将来の変化）

豊岡地区は、今後20年間で人口が約18%減少する予測となっています。人口構成別にみると高齢者は7%増加する予測となっており、年少人口に関しては、21%の減少予測となっています。



	令和2年度	(比率)	令和22年度	(比率)
高齢者人口	12,563人	(23%)	13,484人	(30%)
生産年齢人口	34,185人	(63%)	25,560人	(57%)
年少人口	7,006人	(13%)	5,521人	(12%)
合計	54,595人		44,565人	

図表 主要施設の配置状況



第4章 6地区・9地区ごとの公共施設を通じた行政サービスの実態

③ 主要施設状況

凡例：■ 築20年以上経過した施設 ■ 築30年以上経過した施設 ■ 築40年以上経過した施設

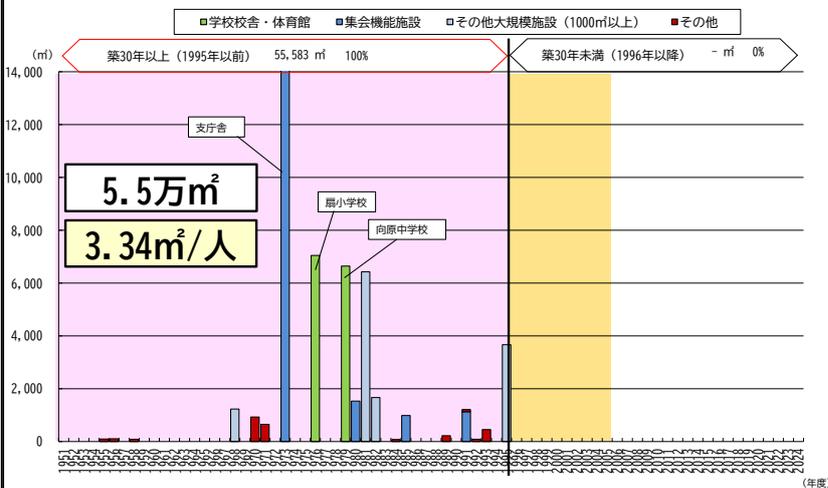
利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		利用状況		コスト状況		パフォーマンス把握指標		
						専有面積(m ²)	複合施設合計(m ²)	稼働率	利用者数(人)	トータルコスト(万円)	利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数	
豊岡地区第一地区	市庁舎	1 市庁舎	1973	昭和48年	51	22,491.12								
	広域	広域集会施設	1 市民活動センター(イルミン)	1980	昭和55年	44	1,081.80	1,529.32	17%	17,660	991	561	49	1.4 回
		2 男女共同参画推進センター	1980	昭和55年	44	447.52	13%		2,154	7,557	35,084	6	0.2 回	
	スポーツ施設	1 市民体育館	1981	昭和56年	43	6,425.33			58,559	8,584	1,466	167	4.6 回	
	障害者福祉施設	1 扇台福祉作業所	1993	平成5年	31	452.08				4,284				
	地区センター	1 扇町屋地区センター	1985	昭和60年	39	985.75								
	地区センター分館	1 扇町屋地区センター久保稲荷分館	1991	平成3年	33	1,125.77								
	老人憩いの家	1 霞川団地陽明会老人憩いの家	1984	昭和59年	40	75.36			392	0.4	10	1	0.0 回	
		2 久保稲荷平成会老人憩いの家	1991	平成3年	33	84.88			2,537	48	189	7	0.2 回	
		3 扇町屋豊老会老人憩いの家	1992	平成4年	32	85.00			2,169	69	318	6	0.2 回	
学童保育室	1 扇学童保育室	1989	平成元年	35	121.35	219.17	87%	52	2,143	412,115				
	2 扇第二学童保育室	1989	平成元年	35	97.82		76%	38	1,753	461,316				
豊岡地区第二地区	小学校	1 扇小学校	1976	昭和51年	48	7,044.06			756	23				
	中学校	1 向原中学校	1979	昭和54年	45	6,639.25			452	12				
豊岡地区第二地区	保育所	1 豊岡保育所	1971	昭和46年	53	650.60			75	150	50%	15,070	2,009,385	
豊岡地区第三地区	文化施設	1 産業文化センター	1984	昭和59年	40	5,029.49	7,247.85	66%	96,408	19,080	1,979	309	18.0 回	
	図書館	1 図書館本館	1984	昭和59年	40	2,218.36			81,461	17,897	2,197	288	15.2 回	
	児童センター	1 児童センター	1987	昭和62年	37	3,863.65			50,006	8,952	1,790	163	9.3 回	
	地区センター	1 東町地区センター	1979	昭和54年	45	1,053.35								
	老人憩いの家	1 八区奥会老人憩いの家	1982	昭和57年	42	86.94			2,857	0.4	1	8	0.5 回	
		2 入間ヶ丘高寿会老人憩いの家	1984	昭和59年	40	63.46			3,107	10.7	35	9	0.6 回	
	学童保育室	1 豊岡学童保育室	1983	昭和58年	41	95.63	7,537.55	83%	33	2,400	727,330			
		2 豊岡第二学童保育室	1983	昭和58年	41	95.62		70%	28	1,863	665,296			
		3 東町学童保育室	1980	昭和55年	44	147.00	93%	51	2,059	403,799				
		4 東町第二学童保育室	1980	昭和55年	44	96.00	85%	34	2,029	596,868				
5 藤沢北学童保育室		2021	令和3年	3	160.73	95%	38	1,629	428,679					
6 藤沢北第二学童保育室		2021	令和3年	3	70.39	95%	38	1,335	351,405					
7 藤沢北第三学童保育室		2021	令和3年	3	136.63	100%	40	1,433	358,304					
豊岡地区第四地区	小学校	1 豊岡小学校	1983	昭和58年	41	7,346.30	7,537.55		353	12				
	2 東町小学校	1980	昭和55年	44	7,130.54	459		15						
	3 藤沢北小学校	1981	昭和56年	43	6,047.69	682	21							
	中学校	1 豊岡中学校	1986	昭和61年	38	9,694.38	273	8						
2 東町中学校	1987	昭和62年	37	7,672.67	199	6								
豊岡地区第五地区	スポーツ施設(広域対応施設)	1 武道館	1991	平成3年	33	3,688.76			39,128	5,799	1,482	111	4.7 回	
		1 弓道場	1992	平成4年	32	362.95								
	地区センター	1 黒須地区センター	1969	昭和44年	55	817.70								
		1 黒須地区センター高倉分館	1977	昭和52年	47	641.53								
	屋内スポーツ施設	1 黒須地区体育館	1990	平成2年	34	1,258.50			10,104	1,784	1,766	67	1.2 回	
	老人憩いの家	1 黒須団地寿会老人憩いの家	1985	昭和60年	39	64.59			1,602	0.3	2	4.4	0.2 回	
		2 鍵山福寿会老人憩いの家	1986	昭和61年	38	82.81			2,034	8.9	44	5.6	0.2 回	
		3 高倉高老会老人憩いの家	1993	平成5年	31	84.05			1,365	0.5	4	3.7	0.2 回	
		4 黒須長生会老人憩いの家	1994	平成6年	30	76.59			685	0.5	7	1.9	0.1 回	
		5 春日町交友会老人憩いの家	1996	平成8年	28	93.78			1,313	44.6	340	3.6	0.2 回	
学童保育室	1 ギャモンドクラブ老人憩いの家	2003	平成15年	21	74.11			1,921	0.5	2	5.3	0.2 回		
	1 黒須学童保育室	1986	昭和61年	38	234.61	6,255.24	121%	85	3,045	358,273				
	2 高倉学童保育室	1988	昭和63年	36	193.00		125%	50	2,236	447,102				
豊岡地区第六地区	小学校	1 黒須小学校	1972	昭和47年	52	6,508.80			442	15				
	2 高倉小学校	1986	昭和61年	38	6,062.24	6,255.24	237	9						
	1 黒須中学校	1981	昭和56年	43	6,051.93	247	8							
豊岡地区第六地区	保育所	1 高倉保育所	1975	昭和50年	49	530.70			60	90	67%	12,506	2,084,376	
2 黒須保育所	1969	昭和44年	55	438.63			55	90	61%	6,866	1,248,434			

④ 築年別老朽化状況

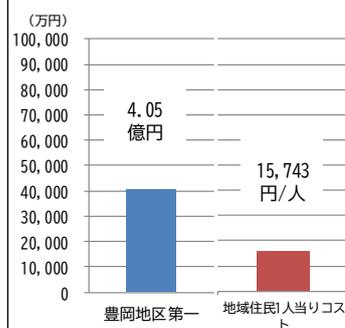
施設の再整備・再配置の方向性

- ・ 小学校は、児童数の推移や施設の老朽化の状況を踏まえて統合します。統合の際は移転建替えを検討します。
- ・ 保育所は、豊岡地区全体で整備の方向性を検討します。

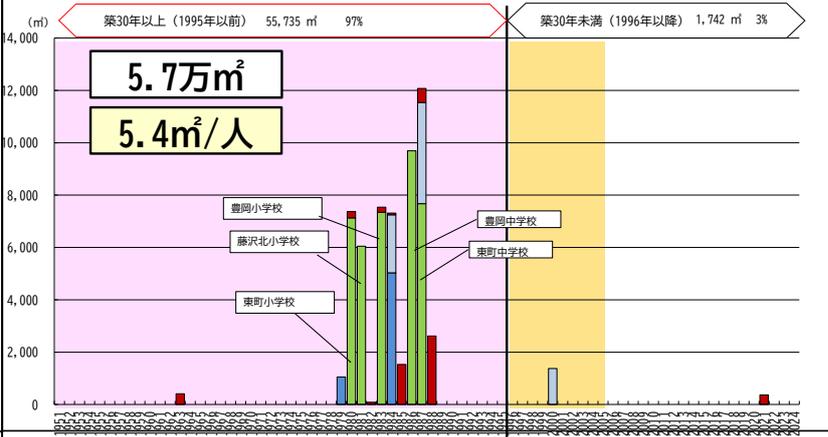
豊岡地区第一地区



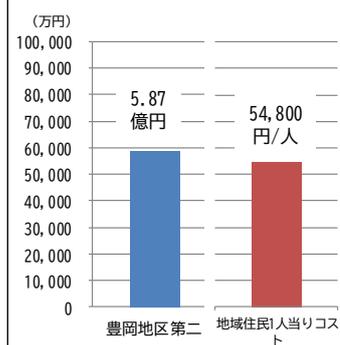
主要施設トータルコスト



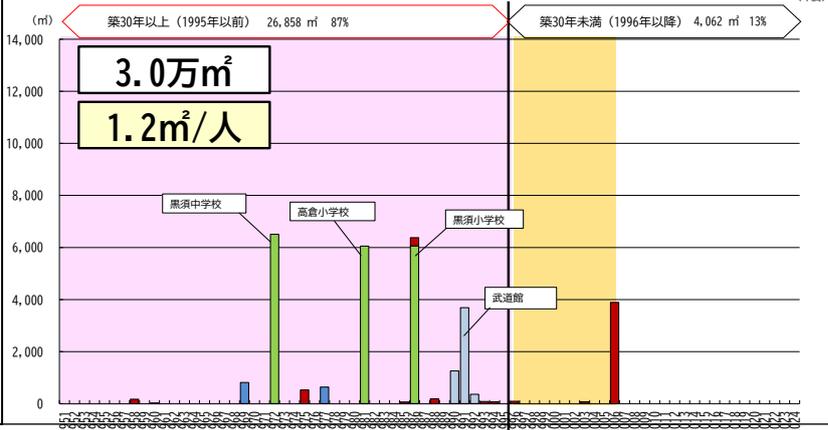
豊岡地区第二地区



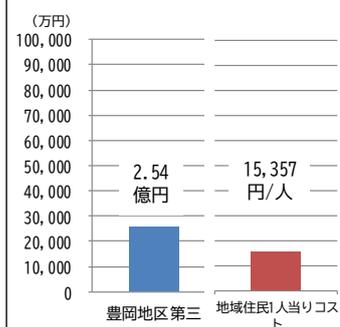
主要施設トータルコスト



豊岡地区第三地区



主要施設トータルコスト



■現状と課題

<人口動向変化からの課題>
高齢者人口の増加と、年少人口の減少が予測され、人口構成の変化による利用ニーズを把握し、地区内に必要な機能の再整備が求められます。

<施設配置状況、保有機能>
豊岡地区の学校施設は築30年～40年以上が経過しており、老朽化が進行しています。市役所は、耐震化に向けて整備方法を検討した結果、A・B棟を建替える方針を定め、現在建設中です。

<施設保全からの課題>
より費用を抑えた効率的な施設整備を行うとともに、災害時における拠点としてより強化した整備が求められます。

東金子地区

	合計		合計
面積 (km ²)	5.87	延床面積 (m ²)	45,562
人口 (人)	15,871	1人当りの保有量 (m ² /人)	2.87
人口密度 (人/km ²)	2,704		

※人口：令和6（2024）年4月（入間市住民基本台帳）



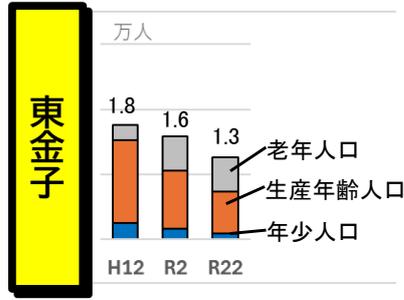
① 概要（土地利用・交通など）

地区南部にはしる圏央道の南には昭和40（1965）年代に造成された武蔵工業団地が立地しており、また、地区内を国道299号と16号が縦断しています。鉄道駅はありません。

南西部は農地（茶畑等）が広がっています。

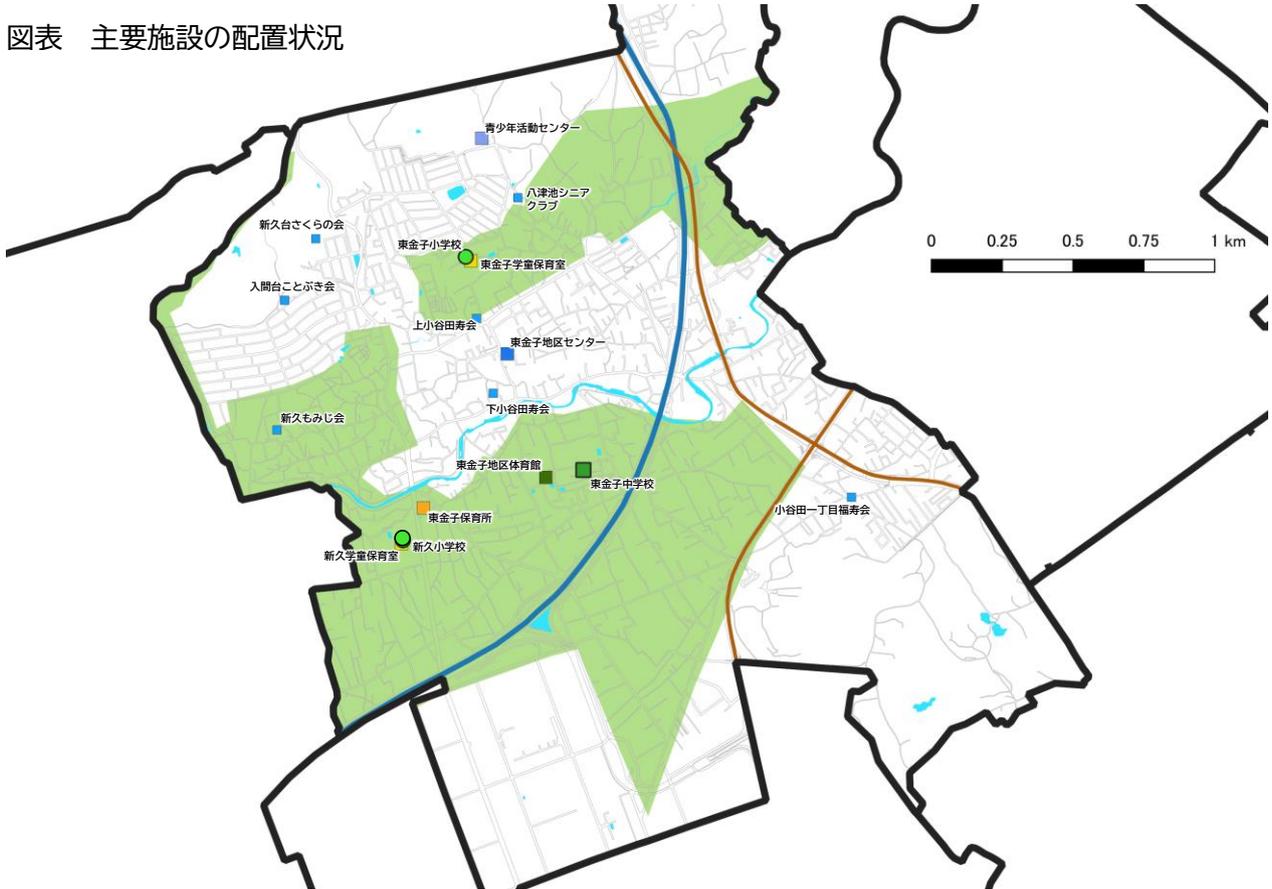
② 人口（現状と将来の変化）

東金子地区は、今後20年間で人口が約22%減少する予測となっています。人口構成別にみると高齢者はほぼ横ばいで、年少人口に関しては、22%の減少予測となっています。



	令和2年度	(比率)	令和22年度	(比率)
高齢者人口	5,279人	(32%)	5,347人	(42%)
生産年齢人口	8,933人	(55%)	6,398人	(51%)
年少人口	1,661人	(10%)	922人	(7%)
合計	16,334人		12,667人	

図表 主要施設の配置状況



③ 主要施設状況

凡例：■ 築20年以上経過した施設 ■ 築30年以上経過した施設 ■ 築40年以上経過した施設

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		利用状況		コスト状況		パフォーマンス把握指標		
						専有面積(m ²)	複合施設合計(m ²)	稼働率	利用者数(人)	トータルコスト(万円)	利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者数(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数	
東金子地区	広域	広域集会施設	1	青少年活動センター	1969	昭和44年	55	2,579.80	13%	16,501	9,879	5,987	46	2.1回
	地区	地区センター	1	東金子地区センター	1984	昭和59年	40	1,421.54						
	地区	屋内スポーツ施設	1	東金子地区体育館	1987	昭和62年	37	1,272.50		28,595	843	295	80	3.6回
	地区	老人憩いの家	1	新久もみじ会老人憩いの家	1984	昭和59年	40	77.42		71	0.4	59	0.2	0.0回
	地区		2	下小谷田寿会老人憩いの家	1986	昭和61年	38	82.81		511	31.2	611	1.4	0.1回
	地区		3	八津池シニアクラブ老人憩いの家	1987	昭和62年	37	82.81		4,508	2.1	5	12	0.6回
	地区		4	入間台ことぶき会老人憩いの家	1987	昭和62年	37	82.81		1,965	36.6	186	5.4	0.2回
	地区		5	上小谷田寿会老人憩いの家	1988	昭和63年	36	82.81		526	0.5	9	1.4	0.1回
	地区		6	新久台さくらの会老人憩いの家	1990	平成2年	34	82.40		1,785	5.3	30	4.9	0.2回
	地区		7	小谷田一丁目福寿会老人憩いの家	1997	平成9年	27	88.19		2,248	20.8	93	6.2	0.3回
地区	児童保育室	1	東金子児童保育室	1975	昭和50年	49	120.19	6,428.97	98%	39	2,100	538,505		
地区		2	新久児童保育室	1980	昭和55年	44	122.84	6,057.67	72%	43	1,759	409,062		

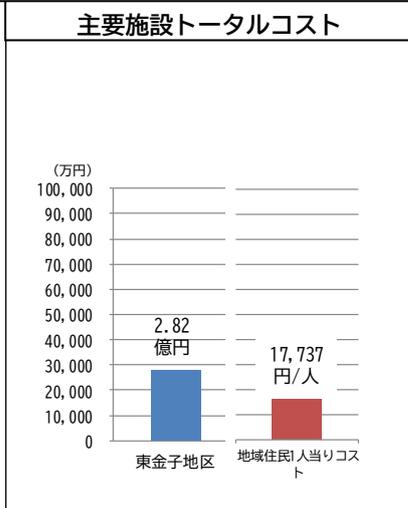
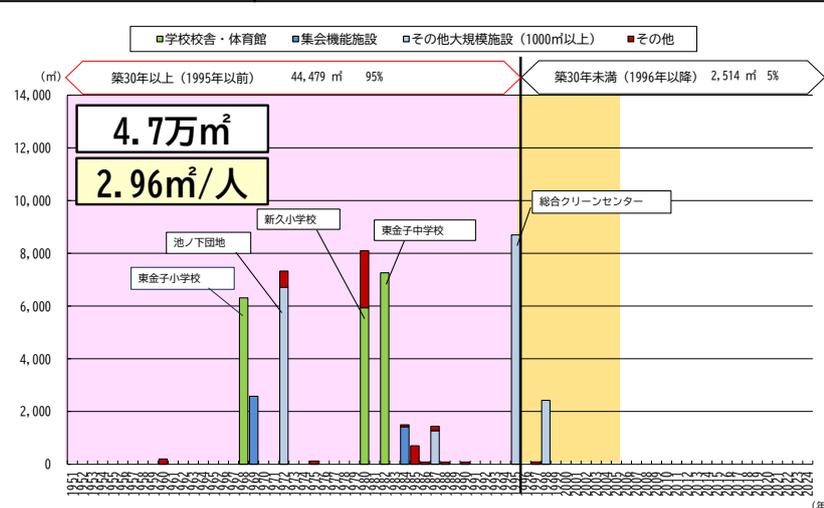
利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		児童数生徒数(人)	学級数 通常学級	
						専有面積(m ²)	複合施設合計(m ²)			
地区	小学校	1	東金子小学校	1968	昭和43年	56	6,308.78	6,428.97	279	12
		2	新久小学校	1980	昭和55年	44	5,934.83	6,057.67	261	10
	中学校	1	東金子中学校	1982	昭和57年	42	7,260.70		255	8

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		園児数(人)	定員(人)	入園率	コスト状況		
						専有面積(m ²)	複合施設合計(m ²)				トータルコスト(万円)	園児1人当たりコスト(円/人)	
地区	保育所	1	東金子保育所	1972	昭和47年	52	621.34		70	90	78%	13,471	1,924,448

④ 築年別老朽化状況

施設の再整備・再配置の方向性

・ 小学校は、児童数の推移と施設の老朽化の状況を踏まえて統合・建替えを行います。



■ 現状と課題

<人口動向変化からの課題>
高齢者人口の増加と、年少人口の減少数が多く、両方の課題への対応が求められます。
そのため、人口構成の変化による利用ニーズを把握し、地区内に必要な機能の再整備が求められます。

<施設配置状況、保有機能>
東金子地区の施設は、いずれも築30年~40年以上を経過しており老朽化が進行しています。

<施設保全からの課題>
学校施設は、築40年以上を経過しており、大規模改修又は建替え検討が必要です。また、年少人口は今後も減少することが予測され、費用を抑えた効率的な施設整備手法や周辺施設との集約化・複合化等を検討する必要があります。

金子地区

	合計		合計
面積 (km ²)	12.34	延床面積 (m ²)	17,599
人口 (人)	9,115	1人当りの保有量 (m ² /人)	1.93
人口密度 (人/km ²)	739		

※人口：令和6(2024)年4月(入間市住民基本台帳)

① 概要 (土地利用・交通など)

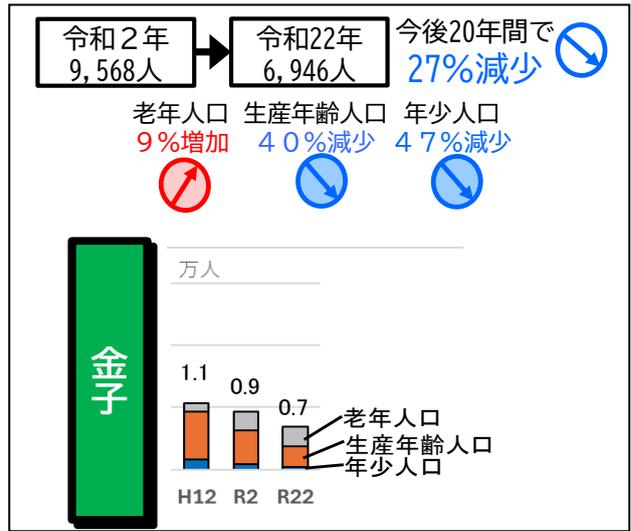
地区の南部、金子台(武蔵野台地)には関東一の面積を誇る茶畑が広がり、その一角には、埼玉県農林総合研究センター茶業研究所もあり、東金子地区とともに狭山茶生産の中心となっています。

地区の北部に位置する加治丘陵には、ハイキングコースなども整備され、市民のレクリエーションの場となっています。

② 人口 (現状と将来の変化)

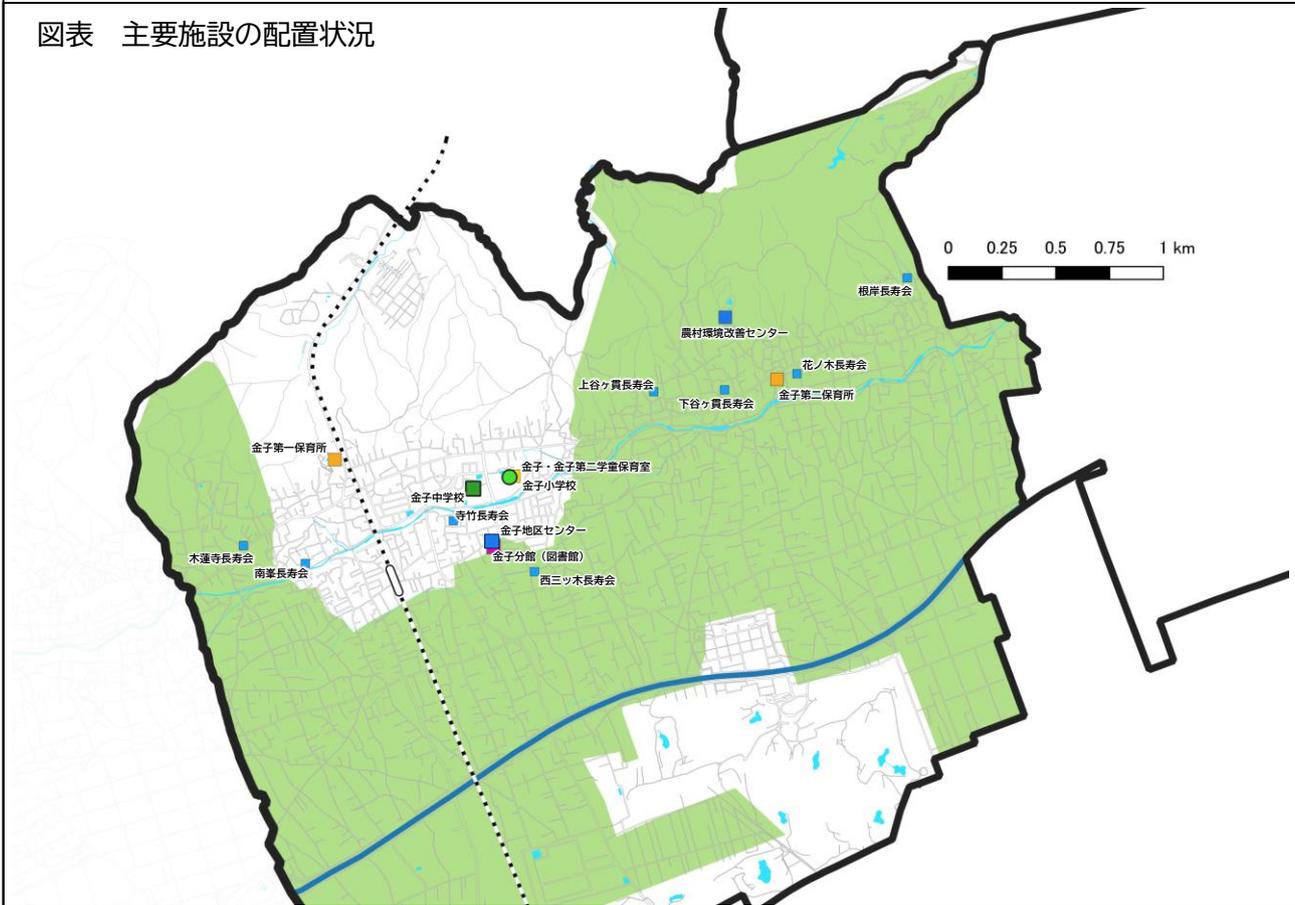
金子地区は、今後20年間で人口は約27%減少する予測となっています。

人口構成別にみると高齢者は9%増加する予測となっており、年少人口に関しては、47%の減少予測となっています。



	令和2年度	(比率)	令和22年度	(比率)
高齢者人口	2,918人	(30%)	3,184人	(46%)
生産年齢人口	5,430人	(57%)	3,279人	(47%)
年少人口	921人	(10%)	486人	(7%)
合計	9,568人		6,949人	

図表 主要施設の配置状況



③ 主要施設状況

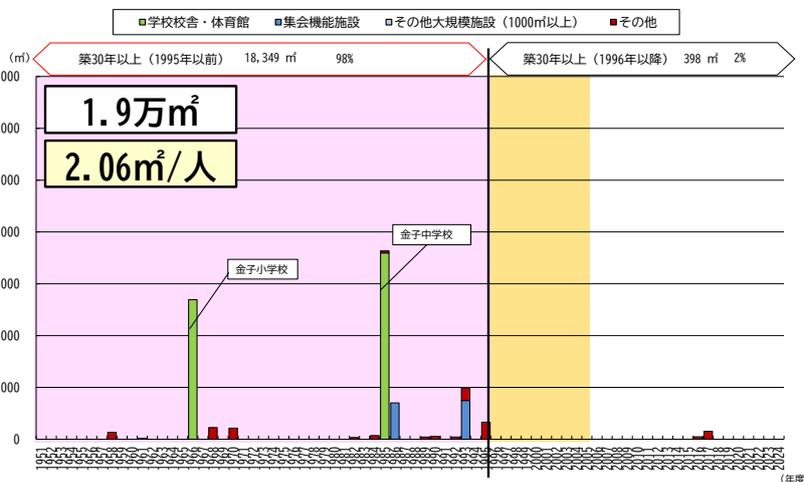
凡例：■ 築20年以上経過した施設 ■ 築30年以上経過した施設 ■ 築40年以上経過した施設

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		利用状況		コスト状況		パフォーマンス把握指標		
						専有面積(m ²)	複合施設合計(m ²)	稼働率	利用者数(人)	トータルコスト(万円)	利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数	
金子地区	広域	保養施設	1	農村環境改善センター	1986	昭和61年	38	1,402.43	20%	17,902	3,180	1,776	101	3.9
	地区	地区センター	1	金子地区センター	1993	平成5年	31	1,494.58						
		図書館	1	図書館金子分館	1993	平成5年	31	307.77		12,339	5,358	4,343	43	2.7
		老人憩いの家	1	根岸長寿会老人憩いの家	1982	昭和57年	42	65.83		188	1.0	54	0.5	0.0
			2	花ノ木長寿会老人憩いの家	1984	昭和59年	40	68.62		1,168	18.7	160	3.2	0.3
			3	下谷ヶ貫長寿会老人憩いの家	1984	昭和59年	40	72.46		895	8.2	91	2.5	0.2
			4	南峯長寿会老人憩いの家	1985	昭和60年	39	82.81		2,205	43.3	197	6.0	0.5
			5	上谷ヶ貫長寿会老人憩いの家	1989	平成元年	35	82.81		1,882	0.5	3	5.2	0.4
			6	西三ツ木長寿会老人憩いの家	1992	平成4年	32	84.88		1,587	68.5	431	4.3	0.3
			7	木蓮寺長寿会老人憩いの家	1993	平成5年	31	86.12		1,058	10.4	98	2.9	0.2
			8	寺竹長寿会老人憩いの家	1993	平成5年	31	84.47		1,054	32.6	309	2.9	0.2
	学童保育室	1	金子学童保育室	1990	平成2年	34	108.60	60%	30	1,455	485,073			
		2	金子第二学童保育室	2016	平成28年	8	93.14	80%	32	1,516	473,802			
利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		児童数生徒数(人)	学級数					
地区	小学校	1	金子小学校	1966	昭和41年	58	5,387.41	333	通常学級		12			
	中学校	2	金子中学校	1985	昭和60年	39	7,189.24	171			6			
利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		園児数(人)	定員(人)	入園率	コスト状況			
地区	保育所	1	金子第一保育所	1968	昭和43年	56	449.44	51	120	43%	14,550	2,853,013		
		2	金子第二保育所	1970	昭和45年	54	426.27	44	84	52%	13,018	2,958,683		

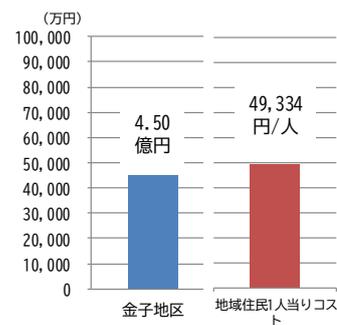
④ 築年別老朽化状況

施設の再整備・再配置の方向性

- ・ 小学校は、施設の老朽化の状況を踏まえて建替えを行います。
- ・ 保育所は、統合・移転建替えを行います。



主要施設トータルコスト



■ 現状と課題

<人口動向変化からの課題>
 地区内でも人口減少率が2番目に高く、年少人口の減少も多い地区になります。
 今後は人口構成の変化による利用ニーズを把握し、地区内に必要な機能の再整備が求められます。

<施設配置状況、保有機能>
 市で保有する施設の延床面積が、最も少ない地域です。ほとんどの施設が築30年以上を経過しており、老朽化しています。

<施設保全からの課題>
 老人憩いの家、農村環境改善センターは、他地区も含めた施設数と機能とのバランスを考慮した整備が必要です。
 保育所は築40年以上と老朽化していることから、今後は利用状況を考慮し、周辺施設との集約化・複合化の検討が必要です。

③ 主要施設状況

凡例：■ 築20年以上経過した施設 ■ 築30年以上経過した施設 ■ 築40年以上経過した施設

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		稼働率	利用者数(人)	コスト状況 トータルコスト(万円)	パフォーマンス把握指標 利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市域)1人当たりの利用回数
						専有面積(m ²)	複合施設合計(m ²)						
宮寺・二本木地区	博物館	1 博物館	1993	平成5年	31	6,546.31		38%	35,173	29,617	8,420	123	6.3回
	老人福祉センター	1 老人福祉センターやまゆり荘	1992	平成4年	32	1,588.84			10,368	10,636	10,259	35	1.9回
	地区センター	1 宮寺・二本木地区センター	1983	昭和58年	41	898.02							
	地区センター分館	1 宮寺・二本木地区センター二本木分館	2006	平成18年	18	1,216.70							
	図書館	1 宮寺配本所	1983	昭和58年	41	57.75			604				
	屋内スポーツ施設	1 宮寺地区体育館	1992	平成4年	32	1,224.17			25,903	1,723	665	73	4.6回
	老人憩いの家	1 宮寺松葉会老人憩いの家	1985	昭和60年	39	82.81			1,830	21.1	115	5.0	0.3回
		2 縄竹長生会老人憩いの家	1985	昭和60年	39	82.81			1,608	0.4	3	4.4	0.3回
		3 二本木寿会老人憩いの家	1986	昭和61年	38	82.81			608	9.0	148	1.7	0.1回
		4 小ヶ谷戸寿会老人憩いの家	1986	昭和61年	38	82.81			2,604	8.96	34	7.1	0.5回
		5 南部不老会老人憩いの家	1987	昭和62年	37	82.81			884	11.4	129	2.4	0.2回
		6 北中野不老会老人憩いの家	1989	平成元年	35	82.76			704	18.7	266	1.9	0.1回
		7 宮寺ひむがしクラブ老人憩いの家	1995	平成7年	29	86.12			1,436	28.2	196	3.9	0.3回
		8 的場ことぶき会老人憩いの家	1998	平成10年	26	85.76			876	25.0	285	2.4	0.2回
9 武蔵台地区むさしの会老人憩いの家		1998	平成10年	26	83.78			3,020	3.0	10	8.3	0.5回	
10 北中野福寿会老人憩いの家		2002	平成14年	22	79.50			1,677	8.3	50	4.6	0.3回	
11 むさし藤沢台悠友クラブ老人憩いの家		2006	平成18年	18	77.42			1,718	0.3	2	4.7	0.3回	
学童保育室	1 宮寺学童保育室	1977	昭和52年	47	78.75	4,283.76		98%	39	2,022	518,549		
	2 狭山学童保育室	1993	平成5年	31	173.00			91%	64	1,950	304,625		

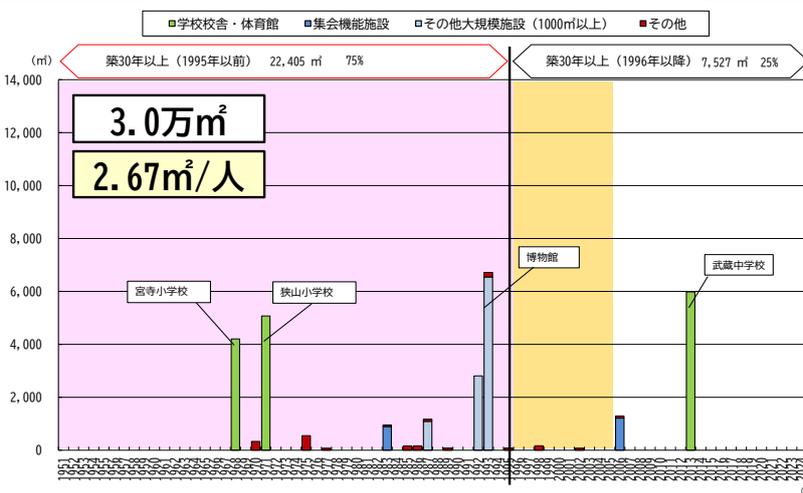
利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		児童数(人)	学級数 通常学級
						専有面積(m ²)	複合施設合計(m ²)		
地区	小学校	1 宮寺小学校	1968	昭和43年	56	4,205.01	4,283.76	223	8
		2 狭山小学校	1971	昭和46年	53	5,072.55		355	12
	中学校	1 武蔵中学校	2013	平成25年	11	5,984.13		295	9

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		園児数(人)	定員(人)	入園率	コスト状況	
						専有面積(m ²)	複合施設合計(m ²)				トータルコスト(万円)	専有面積あたりコスト(円/人)
地区	保育所	1 宮寺保育所	1975	昭和50年	49	553.57		48	120	40%	13,845	2,884,379
		2 二本木保育所	1970	昭和45年	54	331.81		40	60	67%	12,685	3,171,189

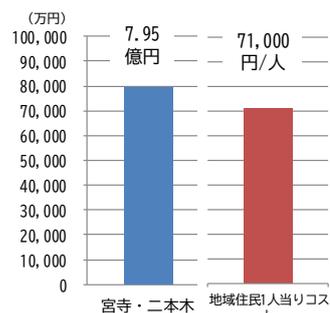
④ 築年別老朽化状況

施設の再整備・再配置の方向性

- ・ 小学校は、児童数の推移と施設の老朽化の状況を踏まえて統合・建替えを行います。
- ・ 保育所は、統合・移転建替えを行います。



主要施設トータルコスト



■ 現状と課題

<人口動向変化からの課題>
年少人口の減少が最も多くなっているため、利用ニーズを把握し、地区内に必要な機能の再整備が求められます。

<施設配置状況、保有機能>
地区内には広域対応施設の博物館(6,546㎡)が整備されており、築30年以上が経過しています。その他にも、老人憩いの家が11施設地区内に整備されています。

<施設保全からの課題>

広域施設の図書館、博物館、老人福祉センターやまゆり荘は、30年以上経過しており老朽化しています。

老人憩いの家、保育所については、今後は利用状況を考慮し、周辺施設との集約化・複合化の検討が必要で

藤沢地区

	合計	第一	第二
面積 (km ²)	4.85	3.99	0.86
人口 (人)	33,988	23,695	10,293
人口密度 (人/km ²)	7,008	5,939	11,969

	合計	第一	第二
延床面積 (m ²)	52,138	43,085	9,053
1人当りの 保有量 (m ² /人)	1.53	1.82	0.88

※人口：令和6（2024）年4月（入間市住民基本台帳）

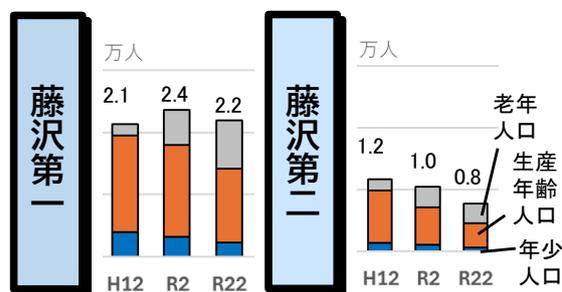
① 概要（地区の面積や人口、特長など）

昭和30（1955）年代以降の大規模宅地開発などや、都心への通勤通学の利便性の良さによる近年の大型集合住宅や大規模店舗の建設により、人口が急増した地区です。大規模な区画整理事業が行われたことにより、大きく街並みが変わっており、快適な都市環境の住宅街となっています。

② 人口（現状と将来の変化）

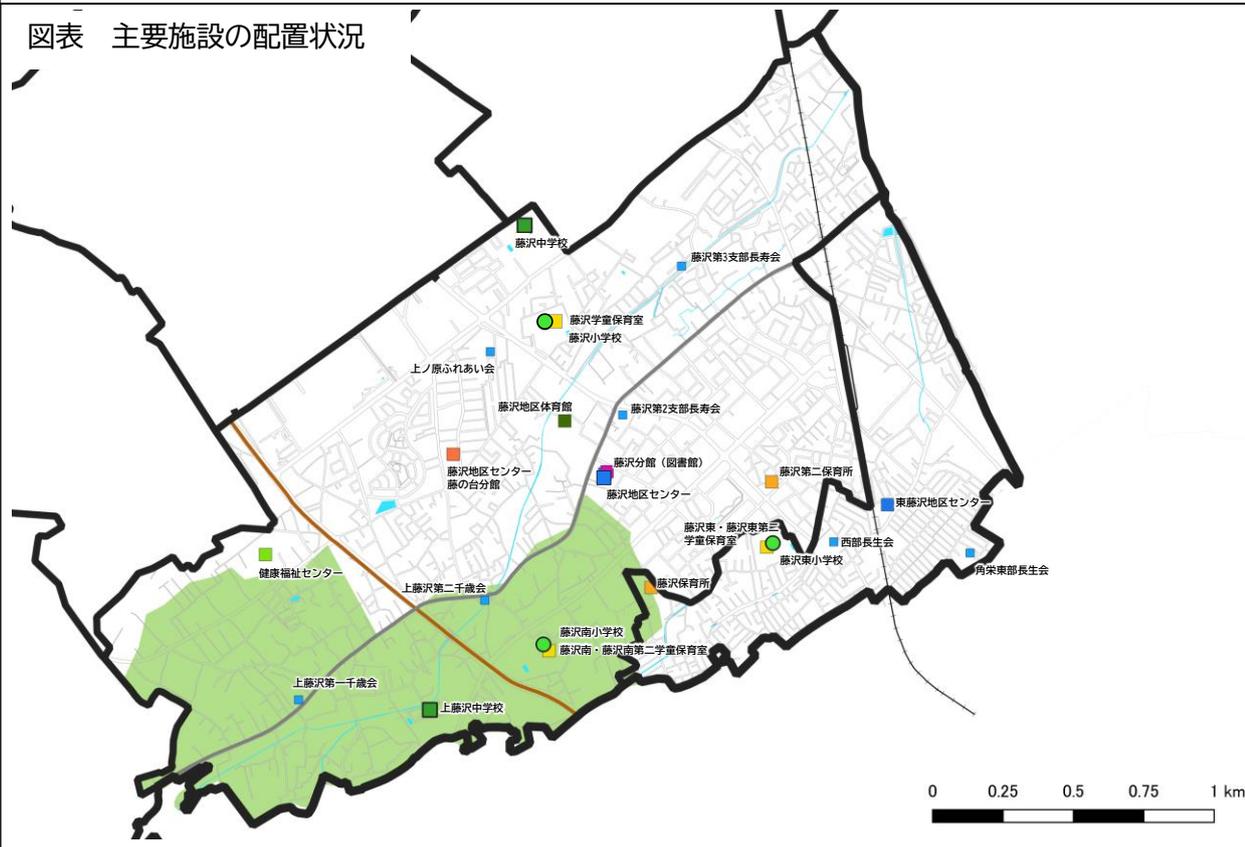
藤沢地区は、今後20年間で人口は約14%減少する予測となっており、他の地区と比べ、減少幅小さくなっています。

人口構成別にみると高齢者は22%増加する予測となっており、年少人口は34%の減少予測となっています。



	令和2年度	(比率)	令和22年度	(比率)
高齢者人口	8,985 人	(26%)	10,995 人	(37%)
生産年齢人口	20,873 人	(60%)	15,904 人	(54%)
年少人口	4,215 人	(12%)	2,763 人	(9%)
合計	34,635 人		29,662 人	

図表 主要施設の配置状況



第4章 6地区・9地区ごとの公共施設を通じた行政サービスの実態

③ 主要施設状況

凡例：■ 築20年以上経過した施設 ■ 築30年以上経過した施設 ■ 築40年以上経過した施設

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		稼働率	利用者数(人)	コスト状況		パフォーマンス把握指標		
						専有面積(m ²)	複合施設合計(m ²)			トータルコスト(万円)	利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数	
藤沢第一地区	保健施設	1 健康福祉センター	2002	平成14年	22	7,956.77		18%	60,557	267,523	44,177	169	5.1回	
	地区センター	1 藤沢地区センター	2000	平成12年	24	1,973.70	3,097.12							
	地区センター分館	1 藤沢地区センター藤の台分館	1986	昭和61年	38	728.08								
	図書館	1 図書館藤沢分館	2000	平成12年	24	1,123.42	3,097.12		56,587	5,838	1,032	199	4.8回	
	屋内スポーツ施設	1 藤沢地区体育館	1986	昭和61年	38	1,276.03			23,279	2,102	903	116	2.0回	
	老人憩いの家	1 上藤沢第一千歳会老人憩いの家	1984	昭和59年	40	79.50			945	24.1	255	3	0.1回	
		2 上藤沢第二千歳会老人憩いの家	1988	昭和63年	36	82.40			1,255	0.5	4	3	0.1回	
		3 上ノ原ふれあい会老人憩いの家	2000	平成12年	24	82.81			1,496	35.0	234	4	0.1回	
		4 藤沢第2支部長寿会老人憩いの家	1997	平成9年	27	96.06			336	0.6	17	1	0.0回	
		5 藤沢第3支部長寿会老人憩いの家	1989	平成元年	35	82.40			2,146	39.4	183	6	0.2回	
児童保育室	1 藤沢児童保育室	1993	平成5年	31	108.48		100%	40	2,526	631,591				
	2 藤沢南児童保育室	2017	平成29年	7	111.78	218.60	88%	35	1,880	537,033				
	3 藤沢南第二児童保育室	2017	平成29年	7	106.82	218.60	78%	31	1,924	620,652				
利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		児童数生徒数(人)	学級数 通常学級					
地区	小学校	1 藤沢小学校	1968	昭和43年	56	6,990.68		376	13					
		2 藤沢南小学校	1971	昭和46年	53	6,123.13		342	13					
	中学校	1 藤沢中学校	1964	昭和39年	60	7,294.77		558	15					
		2 上藤沢中学校	1983	昭和58年	41	7,333.61		391	12					
利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		園児数(人)	定員(人)	入園率	コスト状況			
													トータルコスト(万円)	園児1人当たりコスト(円/人)
地区	保育所	1 藤沢第二保育所	2000	平成12年	24	1,007.25		99	120	83%	20,713	2,092,247		

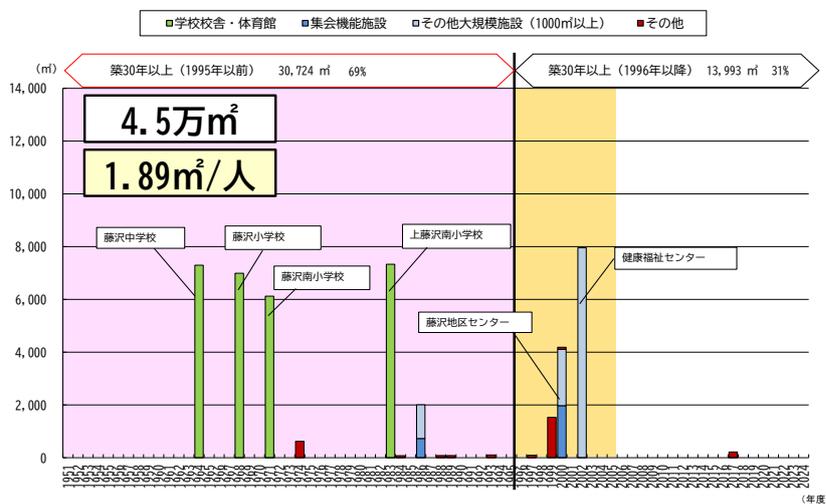
利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		稼働率	利用者数(人)	コスト状況		パフォーマンス把握指標		
						専有面積(m ²)	複合施設合計(m ²)			トータルコスト(万円)	利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数	
藤沢第二地区	地区センター	1 東藤沢地区センター	1994	平成6年	30	1,064.05								
	老人憩いの家	1 角栄東部長生会老人憩いの家	1987	昭和62年	37	82.76			3,162	0.5	2	9	0.6回	
		2 西部長生会老人憩いの家	1982	昭和57年	42	62.93			2,055	4.2	21	6	0.4回	
	児童保育室	1 藤沢東児童保育室	1977	昭和52年	47	199.00		57%	40	1,740	434,977			
2 藤沢東第二児童保育室		2017	平成29年	7	161.09	6,568.13	100%	40	1,733	433,278				
利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		児童数生徒数(人)	学級数 通常学級					
地区	小学校	1 藤沢東小学校	1977	昭和52年	47	6,407.04	6,568.13	501	17					
利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		園児数(人)	定員(人)	入園率	コスト状況			
													トータルコスト(万円)	園児1人当たりコスト(円/人)
地区	保育所	1 藤沢保育所	1998	平成10年	26	1,081.37		92	120	77%	21,906	238		

④ 築年別老朽化状況

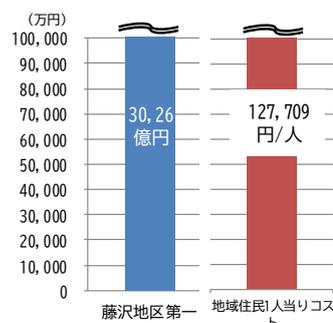
施設の再整備・再配置の方向性

- ・ 小学校は、児童数の推移と施設の老朽化の状況を踏まえて統合・建替えを行います。
- ・ 保育所は、藤沢地区全体で整備の方向性を検討します。

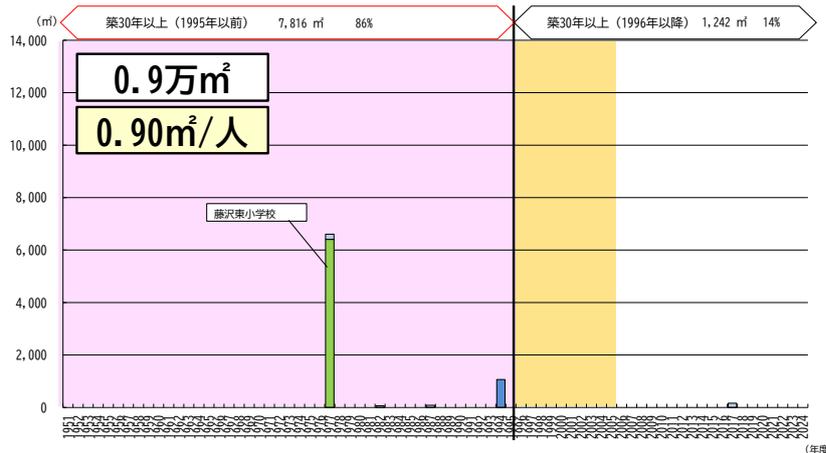
藤沢地区第一地区



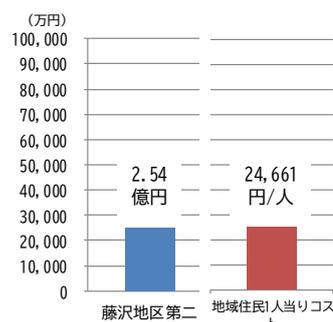
主要施設トータルコスト



藤沢地区第二地区



主要施設トータルコスト



■現状と課題

<人口動向変化からの課題>
 地区人口の変化が14%と、地区内で減少率が少ないものの、老年人口の増加、年少人口の増加は最も多くなっています。
 今後は、人口構成の変化による利用ニーズを把握し、地区内に必要な機能の再整備が求められます。

<施設配置状況、保有機能>
 主なものは広域集会施設と学校施設となります。小、中学校4施設全てが築40年以上経過しており、老朽化が進行しています。

<施設保全からの課題>
 地区内の学校施設のすべてが老朽化しており、さらに藤沢地区体育館が築40年近くとなり、学校と合わせて早急な対応が求められます。
 今後は人口変化と共に、施設の老朽化の対応と利用ニーズの変化に対応した施設のあり方を検討する必要があります。

西武地区

	合計		合計
面積 (km ²)	4.95	延床面積 (m ²)	35,368
人口 (人)	21,094	1人当りの保有量 (m ² /人)	1.68
人口密度 (人/km ²)	4,261	※人口：令和6年4月	

① 概要 (地区の面積や人口、特長など)

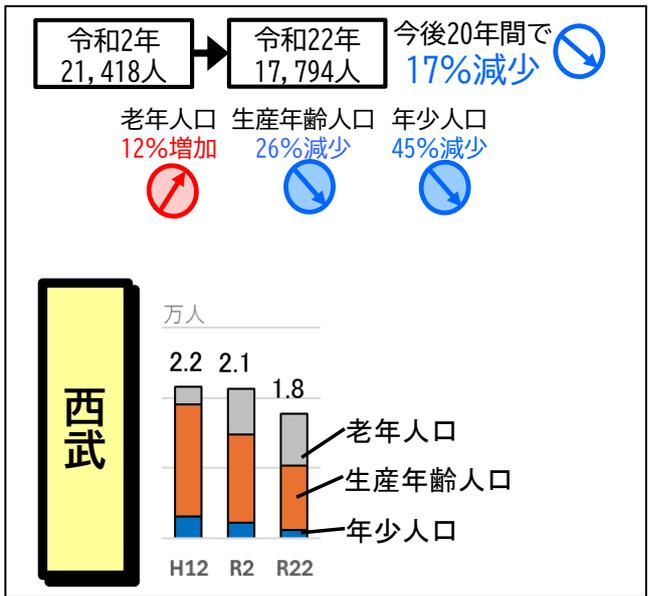
入間市の北西部に位置し、面積は6地区の中で一番狭くなっています。地区の中央を入間川が流れ、中世より歴史があり、織物生産など繊維産業が盛んな地区でした。

昭和50(1975)年代終わりごろからから西武ぶしニュータウンの分譲が始まるなど、都市近郊のベッドタウンとして人口が増えた地区でもあります。

② 人口 (現状と将来の変化)

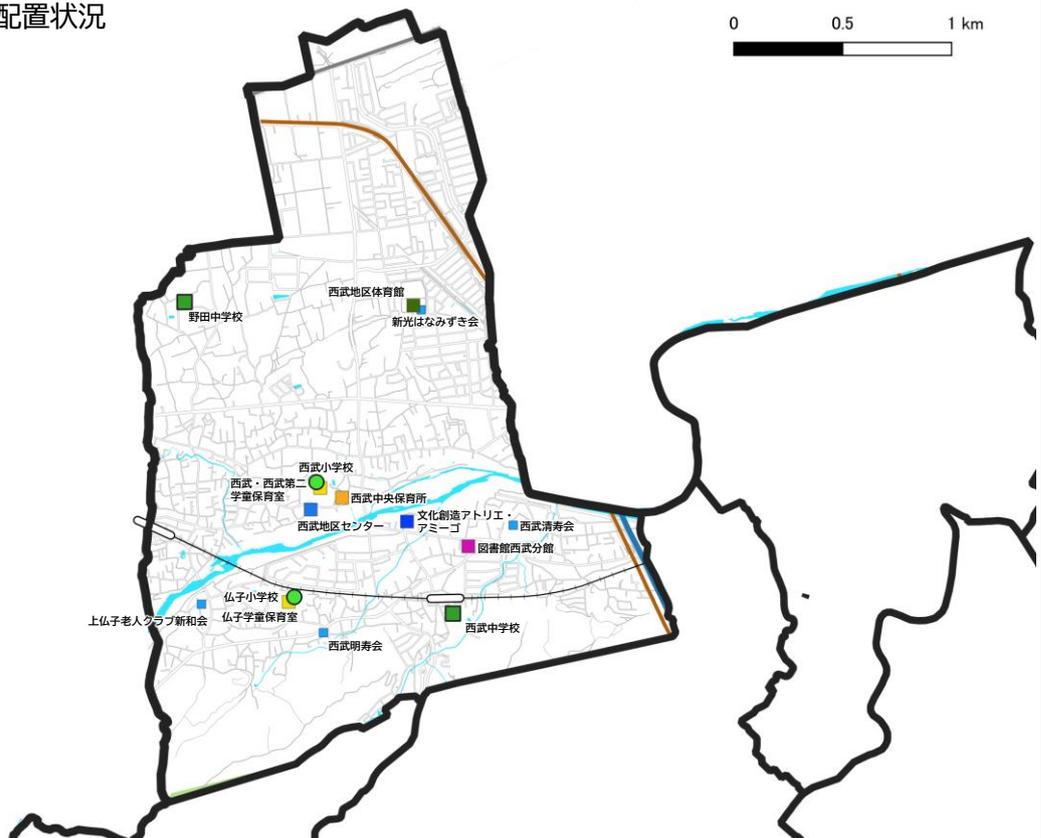
西武地区は、今後20年間で人口は約36%減少する予測となっています。

人口構成別にみると高齢者は12%増加する予測となっており、年少人口は45%の減少予測となっています。



	令和2年度 (比率)	令和22年度 (比率)
高齢者人口	6,591人 (31%)	7,372人 (41%)
生産年齢人口	12,482人 (58%)	9,190人 (52%)
年少人口	2,243人 (10%)	1,232人 (7%)
合計	21,414人	17,794人

図表 主要施設の配置状況



③ 主要施設状況

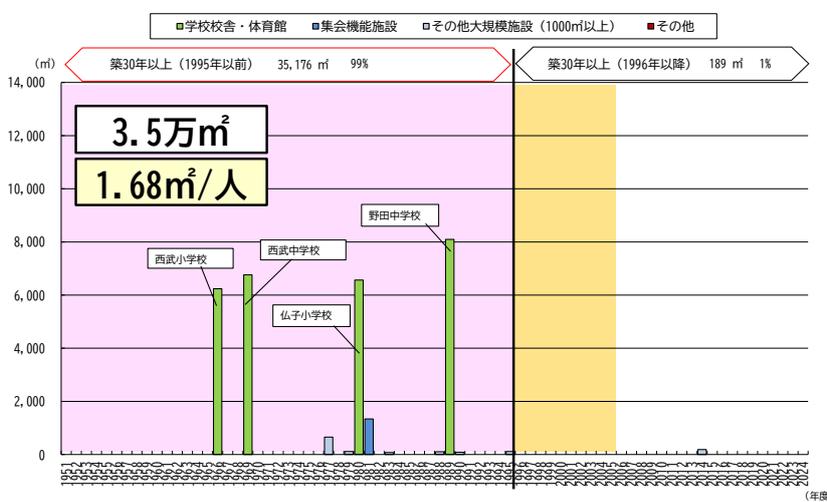
凡例：■ 築20年以上経過した施設 ■ 築30年以上経過した施設 ■ 築40年以上経過した施設

利用圏域	施設	施設名称	建築年度(年度)	建築年度(年度)	築年数(年)	延床面積(m ²)		利用状況		コスト状況		パフォーマンス把握指標	
						専有面積(m ²)	複合施設合計(m ²)	稼働率	利用者数(人)	トータルコスト(万円)	利用者1人当たりコスト(円/人)	1日当たり利用者(人/日)	地区住民(市民)1人当たりの利用回数
西武地区	文化施設	1 文化創造アトリエ・アミーゴ	不明	不明		1,796.63		47%	31,954	5,085	1,591	89	3.0回
	地区センター	1 西武地区センター	1981	昭和56年	43	1,340.33							
	図書館	1 図書館西武分館	1992	平成4年	32	2,120.11			9,586	7,281	7,595	34	0.9回
	屋内スポーツ施設	1 西武地区体育館	1988	昭和63年	36	1,258.50			30,136	910	302	85	2.9回
	老人憩いの家	1 西武清寿会老人憩いの家	1983	昭和58年	41	76.18			2,623	63.5	242	7	0.2回
		2 新光はなみずき会老人憩いの家	1988	昭和63年	36	101.85			7,695	0.5	1	21	0.7回
		3 上仏子老人クラブ親和会老人憩いの家	1990	平成2年	34	83.63			832	0.5	6	2	0.1回
		4 西武明寿会老人憩いの家	1979	昭和54年	45	112.62			2,666	0.0	0	7	0.3回
	学童保育室	1 西武学童保育室	2014	平成26年	10	94.62	189.23	100%	40	1,810	452,425		
		2 西武第二学童保育室	2014	平成26年	10	94.61	189.23	100%	40	1,609	402,212		
3 仏子学童保育室		1995	平成7年	29	112.62		86%	43	2,103	489,145			
小学校	1 西武小学校	1966	昭和41年	58	6,238.71			609				20	
	2 仏子小学校	1980	昭和55年	44	6,564.75			248				10	
中学校	1 西武中学校	1969	昭和44年	55	6,762.62			131				4	
	2 野田中学校	1989	平成元年	35	8,094.12			341				9	
地区	保育所	1 西武中央保育所	1977	昭和52年	47	654.60			83	90	92%	16,959	2,043,241

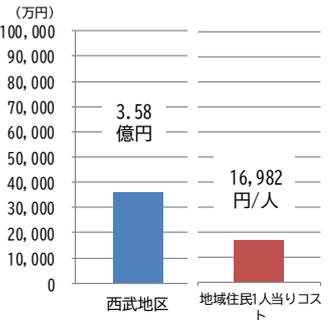
④ 築年別老朽化状況

施設の再整備・再配置の方向性

・ 小学校、中学校は、児童・生徒数の推移と施設の老朽化の状況を踏まえて統合・建替えを行います。



主要施設トータルコスト



■ 現状と課題

<人口動向変化からの課題>
市内でも今後20年間の高齢者人口の増加率が高く、生産年齢人口が26%、年少人口は45%の減少予測となっています。今後は、人口構成の変化による利用ニーズを把握し、地区内に必要な機能の再整備が求められます。

<施設配置状況、保有機能>
広域集会施設の文化創造アトリエ・アミーゴや図書館西武分館などが整備されており、いずれも集会機能を保有しています。学校施設が築30年以上経過し、老朽化が進行しています。

<施設保全からの課題>
今後の利用向上を図る上でも周辺の類似機能を保有する施設との集約化・複合化等を検討し、地区内の施設全体で、費用を抑えた効率的な整備を推進していく必要があります。